

農園通信

2026年1月・2月

発行・問合せ先:島本町農業振興団体
協議会・町民農園部会 福田

fukuda-ka@mail.plala.or.jp

1月・2月の農作業

- ◆玉葱の追肥
- ◆ブロッコリーの追肥
- ◆葉物(小松菜、ホウレンソウ、チンゲン菜など)の追肥
- ◆ジャガイモの種芋植えの準備(うね作り)
- ◆夏野菜準備の為の土壌作り

堆肥を入れてショベルで土を
ひっくり返しておく「荒起こし」
をしておくと、冬の寒さで土が
自然に耕されて肥沃になる。



- ブロッコリー=肥料分が少なくなると花蕾が開いてきて味も落ちてくる。収穫時に肥料分が残っている方が良い。
- キャベツ、白菜=収穫時に肥料分が切れた方が美味しい。寒さで糖分が凝縮して甘くなる。
- 葉物=肥料分が少ないと早く塔立ちするので冬は大目に追肥する。但し多すぎるとえぐみが出る。
*玉葱以外の追肥は株元から離して施す。

今期のアブラナ科は良い出来・夏の猛暑の影響で害虫が少ない

アブラナ科の大根、小松菜、チンゲン菜、カブ、白菜等は、薬を使わないと虫(ダイコンサルハムシ)に食べられて葉がレース状になってしまいます。しかし今年は何処の畠も食害が少ない。これは、夏の高温で虫の生育に変化が起った為ではないかと思います。大豆(枝豆)のカメムシ被害も少なかった。秋の柿も大豊作でしたね。どの家の庭木も鈴なりでした。“なり年”以外に、柿を若いうちに落としてしまうカキノヘタムシガが少なかったのではないかと思います。しかし、単純に喜びは出来ません。4年前は温暖化でカメムシによって大豆がほぼ壊滅していました。ところが、カメムシについて研究者の面白いレポートあり。この2年は「さらに夏の高温化でカメムシが減少した」と。自然はいろいろな要因が絡み合っています。畠では、自然の複雑な変化に対して、目の前の変化を観察し対処を考えます。

島本町農業振興団体協議会の研修で滋賀県のタキイ研究農場へ

12月10日、タキイ種苗研究農場を見学しました。前回は部屋での講習だけでしたが今回は実際に農場を見学して、なっている野菜の味見もしました。

- ・トマトは木が大きくなるに従い、株元からだんだん離して追肥する。「水切りをすると甘くなる」と言われるが、露地では雨を完全に防ぐことは出来ないので水を切って育てると実が割れる。実を割れにくくするには土の水分量が安定している方が良い。
- ・ナスの木の剪定は3本仕立てと言われるが、要は葉の日当たりをよくすることが必要。内側は日が当たりにくいので、内側の枝を選定していくば枝が外側に広がっていく。
- ・苗づくりのコツは徒長(胚軸が長くなる)させないこと。徒長の原因は3つ。温度、肥料が多い、水が多い。水が下から出るのは多すぎ。…等々、熱心に教えて下さいました。ありがとうございました。



(;^ω^)冬の畠は静かです

経験談

(Oさん)



ブロッコリー

10月中旬にリーフレタスの種を蒔きましたが1週間経っても発芽しないため、代わりに小松菜の種を蒔きました。小松菜は順調に大きく成長し、間引きしながら収穫できています。小松菜の株間からも1週間前に種まきしたリーフレタスが生育していました。アブラナ科の小松菜とキク科のレタスは良い影響ができる組み合わせ：共生植物（コンパニオンプランツ）とのことです。またマメ科の野菜を混植すると生育に良いとのことで、リーフレタスの苗をスナックエンドウの株間に移植して様子を見ています。（Hさん）

白菜の種を8/5に撒いたが、猛暑で枯らしてしまった。9/20に撒き直し、10/13に苗を畠に植えた。しかし、成長が遅く、11月に急に寒くなり、11/23ビニールトンネル掛けをした。

結果、1/5現在、未だ巻きが甘く収穫できていない。種まき時期の大切さを思い知った次第です。

（Sさん）

タマネギとイチゴは追肥と寒さ対策をしました。

ビニールトンネルの効果が二ラで確認出来ましたので、又カと堆肥を漉き込んだ畝に、サニーレタス、ミツバを植え替えて、藁を敷き、トンネルを被せました。

ソラマメ、エンドウ類、発芽が非常に悪かったので播き直しをしてビニールで覆いました。

撒収する畠では、ミョウガの茎とこれ迄何年もほったらかしにしていたヤマイモの掘り起こしを進めています。これがなかなか力のいる仕事です。

（Fさん）

今年は輪作の関係で里芋のうねの隣がさつま芋のうねになりました。もらった安納芋の苗と自分で作った鳴門金時の苗を植えました。水の必要な里芋と水の要らないさつま芋、さつま芋のうねもずいぶん高くしました。さつま芋のツルは水が豊富にあるので元気、元気！ツル返しも追いつかず隣の里芋のうねにまで広がります。特にツルのすごかった5月に植えた安納芋は、ツルボケを警戒して12月初旬まで畠に置きました。1株に20個ほどの芋、何とか太っていました。しかし、鳴門金時（1株5個程）のように芋づる式で出てこないしポキポキ折れやすいし、掘り起こすのが一苦労でした。収穫を遅らせたことで、何とかツルボケを防げて良かったです。

（Yさん）

さつま芋ツルボケか、芋がほとんど入っていない。ツルボケの原因は多水か。

（Fさん）

ネギの苗植えで失敗。10月に遅いがネギの苗を2か所に植えた。草が大変だったので穴あきマルチを使った。忙しかったので耕すのも不十分だったかと思う。2か所のうち1か所ではネギが全く立って来ない？…すべて根が腐っていた。根腐れの1か所のうねをもう1度よ～く耕して、安全のためにマルチを張らずに新しいネギ苗を植え直した。

ネギは干しネギというくらい、水が無くても数週間くらい土の上に放置しても生きている。しかし、ネギの根は空気がないと生きていけない。手抜きもほどほどに。

今年は何を植えようか

冬は草も虫もおとなしく、野菜の成長もゆっくり。ゆったりした時間の中で、春夏の野菜づくりに思いを巡らせる楽しい時間ですね。



12/26



ソラマメ 撮影



実えんどう、スナップエンドウ